

「4・13 根津山だより」発行のご挨拶

4・13根津山小さな追悼会は今年で26回を迎えます。回を重ねるごとに空襲を体験された方々も少なくなり、戦争を知らない世代が多くなりました。

これまで3冊の被災証言集を発行してきましたが、託された空襲被災体験を少しでも早く皆さまにお伝えできるように、そして新しい世代の方々にこの街も戦禍に見舞われた時代があったことに想いを寄せてもらえるように、年に1回「4・13 根津山だより」を発行いたします。追悼会の活動が、皆さまと共に平和を築き守って行くための礎の一つになることを心より願っております。

4・13 根津山小さな追悼会実行委員一同



●2019・4・13「鎮魂のこぼれ」より(抜粋)●

日本キリスト教団 豊島岡協会 牧師 濱田美也子

皆様が亡くなられた方を忘れないで追悼されていることは、大切なことではないかと思えます。この「根津山小さな追悼会」が毎年行われ、犠牲になった方々を偲び追悼し続けていることに深い意味があると思えます。

「被災証言集」では、たくさんの方が4月13日の出来事をよく記憶されていて、逃げ惑った時の恐怖、両親や兄弟を亡くした記憶、自宅が全焼した話、どんなにか無念と悲しみを抱きつつ今日まで生きてこられたかを綴っておられました。心の奥深く忘れることのない悲しみを背負って生きてこられたことと思えます。

こうやって「根津山小さな追悼会」に皆様が集まって当時を偲び、亡くなられた方を記憶することが続いているということが、お一人おひとりの心の中に尚その方々が生きておられるということだと思えます。

人として生まれ、その命をまっとうして生き抜く。そして最後に良い人生であったと言えるためには平和でなければなりません。私達にはささやかであっても、自分が置かれた場所で平和を作り出す働きをしていきたいと思えます。平和は向こうからやってはきません。私達が努力して生み出していくものです。お一人おひとりがその働きを担っていくものでありたいです。

●被災証言●

戸田成正 (80代) 板橋区成増在住

私の両親とも盲目で、鍼・マッサージで生活をしていました。父は成人になって失明し、母は3歳ごろ失明したそうです。その両親は当時別居し、次兄は父と、私は母と荒川区新三河島駅(京成)近くに住んでいました。私は、国民学校高等科2年間は軍需工場で勤労働員で働いていました。食糧事情が悪かったので、工場で出されるお昼のお弁当が楽しみでした。

私は、学校は不登校でしたので、母がお願いをしてくれて、4月13日からクラス替えになりました。当時の先生は威張っていたので、よく母がクラス替えをさしてくれたと思いましたが、その13日の夜に地獄を体験するとは思ってもよかったです。空襲で、目の前で母が焼き殺され、私も火だるまとなりました。今も下唇は歪み、右の外耳は無く、ケロイドは顔、内股、左足首に残り、首は引きつって左横に動かせません。

13日深夜、空襲警報が鳴り、盲目の母の手を引き逃げる途中、焼夷弾が落ちました。母はモンペに火がつき私の目の前で火だるまに、私も倒れました。母は大事なものを風呂敷に包み腰に巻いていました。それに火がついたのです。気づいた病院で顔が2倍にも腫れていました。逃げる時、右に行かず、左に行っていれば

母は死ななかったのではと今も悔やまれます。

孤児となり、孤児の施設や上野の地下道を転々としてきました。上野辺りを歩いていると、浮浪児仲間と間違われ、追ってきたあんちゃんが私の防空頭巾をとってやけどを見て何もしないで行きました。ケロイドで差別されてきました。防空頭巾やばんそうこうで怪我を隠して生きてきました。父と兄が徳島に疎開したとわかり、一人で電車で向かいました。同情した警察官などに助けられ徳島にたどり着きました。

国は軍人には補償をしましたが、我々空襲の被災者には補償をしていません。

(2019・6・聞き取り・吉田)

田中正子 (80代) 北区堀船在住

私が知りたいと思った4月13日の空襲のことは、あまりニュース等でもやりませんので本当にあったのだろうか？と思うことがありました。私が八歳の時に上板橋で焼け出され、母の実家銚子市へ疎開しましたので、あの日のことはあまりよく思い出せませんが、母が下を向いて歩けと言ったことを覚えています。亡くなった人達を見せたくなかったのだと思っています。

4月13日はやはり現実にあったのだと思い、孫達に戦争はしてはいけないことだと書き残しておきたいと思っており私の体験を思い出せる限り書こうと思っています。(手紙より)

石井 豊 (50代) 那覇市在住

私は56歳の歯科開業医です。父…石井淳は第2集に記されており、4月13日には上池袋4丁目池袋第1小学校の南側五差路(交番前)を北北東へ逃げ生還しました。(ハガキより)



◆新人実行委員から一言◆

実行委員会に参加に際して 薬師寺陽子 (70代)

思い出すのも辛く苦しい体験を しばらく出ず様に語られた方々のお話を 直に聞いた者として 次の年代に繋げていかなければならないと 戦争を体験した母が亡くなって 更に強く心に思いました。

有壁 亮 (40代)

こんな池袋の平和な憩いの場に、このような過去があったとは知りませんでした。

日本において、戦争がない平成という時代が終わりましたが、令和の時代もその後もずっと戦争の恐ろしさを忘れず平和を守っていかなければなりません。

追悼の気持ちも当然ですが、この事実を後世に伝えていくべき義務が私たちの世代にはあると感じます。

猪沢美礼 (30代)

私の住むこの街にも空襲があったなんて知りませんでした。そして追悼会が行われていることも知りませんでした。さらに、追悼会が数人の先輩たちで催されていることも知りませんでした。

これを機に被災体験を拝読しましたが、それでも体験していない私にとっては、"知らないこと"なのです。だからこそ、実行委員の皆さんと一緒に平和活動をするのが、知らない戦争を少しでも知ることになるのだと思います。

いつか私が親になった時、こんなことがあったのだと教えられる大人になるべきだと思わせてくれました。

◆実行委員から一言◆

追悼会風景から 三上明子 (80代)

お子様を抱いたご夫婦、女子グループが食事をしながら、話や朗読を聞いている姿が目にとまりました。また、「この子(5~6歳位)にお話をしてあげたいので」と、証言集を求めているお母さんもいました。少しずつ若い世代に伝えられていけば嬉しいです。

●連絡先● 事務局 吉田 雅明 090-1663-4538

Web <https://413nezuyama.jimdoofree.com/>

Blog <http://413nezuyama.blogspot.com/>

Twitter @413nezuyama